

第1部 子供・若者の状況

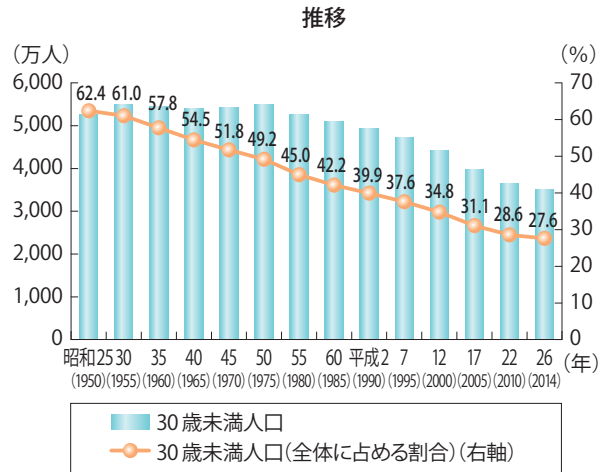
第1章 人口

第1節 人口

1 現状と推移

○30歳未満人口は、昭和50（1975）年以降、ほぼ一貫して減少。（図表1）

図表1 30歳未満人口



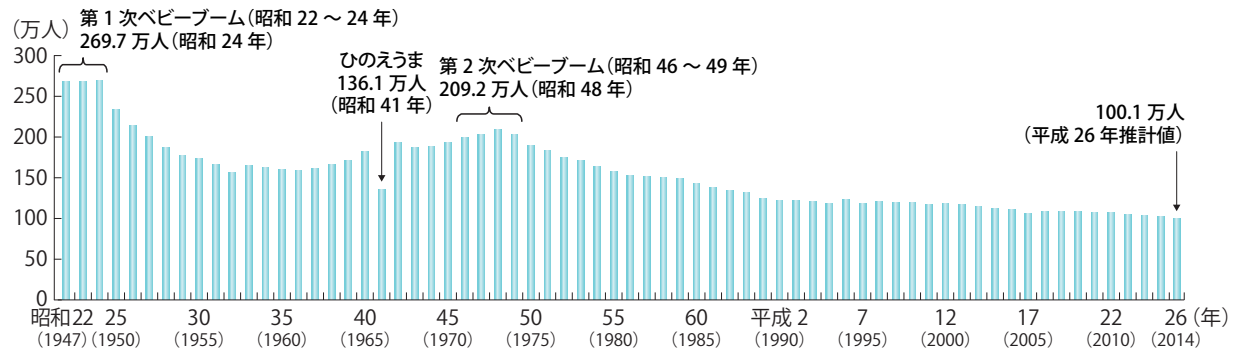
(出典) 総務省「国勢調査」「人口推計（各年10月1日現在）」
(注) 昭和45年以前の数値には沖縄県は含まれない。

2 人口動態

(出生)

○出生数は、緩やかな減少傾向が続く。（図表2）

図表2 出生数

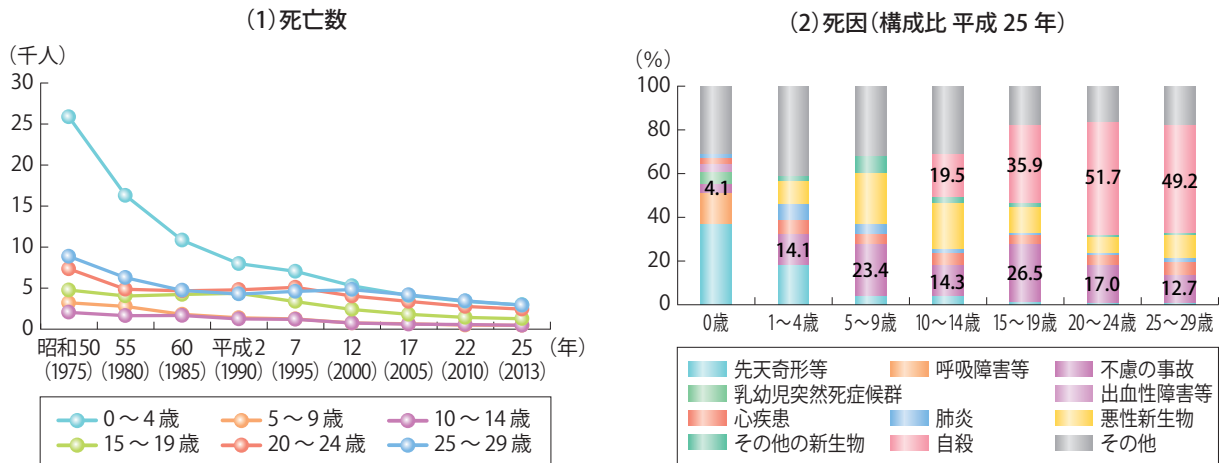


(出典) 厚生労働省「人口動態統計」
(注) 1. 昭和47年以前の数値には沖縄県は含まれない。
2. 平成25年までは確定数、平成26年は推計数。

(死亡)

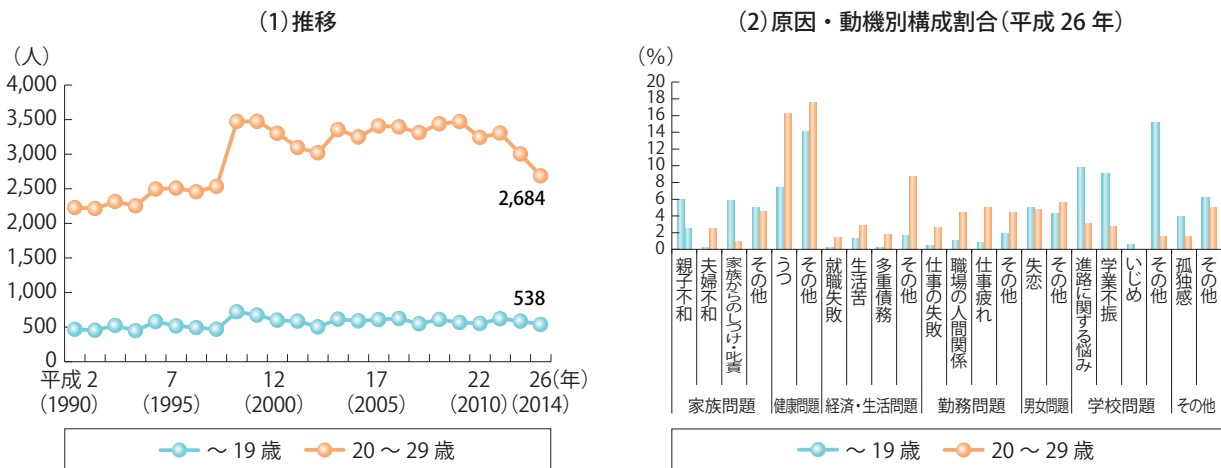
- 死亡数は、0～4歳が最も多く、次いで25～29歳。死因は、10歳未満では不慮の事故などが多く、10代以降では自殺が不慮の事故を上回る。(図表3)
- 警察が把握した30歳未満の自殺者数は3,222人。原因・動機をみると、「うつ」などの健康問題が多く、19歳以下では学校に係る問題も多くを占めている。(図表4)

図表3 死亡数



(出典) 厚生労働省「人口動態統計」
 (注) (2) の死因名について、「心疾患」は「心疾患(高血圧性を除く)」を、「先天奇形等」は「先天奇形、変形及び染色体異常」を、「呼吸障害等」は「周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害」を、「出血性障害等」は「胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害」を、それぞれ指す。

図表4 自殺者の状況



(出典) 内閣府・警察庁「自殺の状況」
 (注) (2) の原因・動機は、遺書などの自殺を裏付ける資料により明らかに特定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上したもの。

第2章 健康

第1節 発育

1 体格

- 身長はおおむね横ばいである一方、小学生・中学生の体重が減少傾向。(図表5, 図表6)